



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

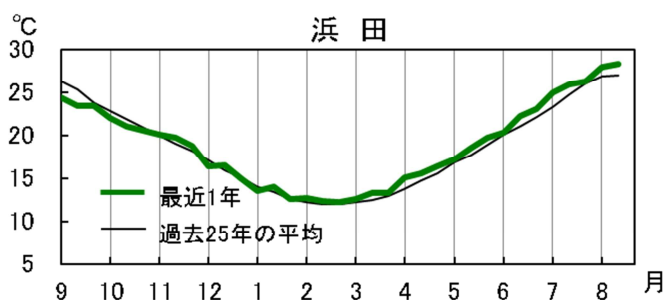
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《7～8月の海況》

7月	月平均	平年差	評価
浜田	25.7℃	+1.0℃	やや高め
恵曇	25.1℃	+1.1℃	やや高め

沿岸定地水温は、浜田地区では、7月上旬は「かなり高め」、中旬は「やや高め」、下旬は「平年並み」となり、8月に入り上旬時点で「やや高め」で経過しています。恵曇地区では、7月上・中旬は「やや高め」、下旬は「平年並み」となり8月に入り上旬時点でも「平年並み」で経過しています。



《7月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田地区ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は9.7トンで平年並みとなりました。魚種別の動向(総漁獲量)は、サバ類は124トンで平年の1.7倍となりましたが、マアジは140トンで6割程度となりました。隠岐地区ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は14.4トンで平年を下回りました。魚種別の動向(総漁獲量)は、マアジは1,697トンで平年の6割程度となりました。サバ類は263トンで平年並みとなりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区(属地5トン以上)ではケンサキイカ(全体の94%)とスルメイカ(全体の6%)が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は55kgで平年を下回りました。一方、西郷地区(属人5トン以上)ではケンサキイカ(全体の34%)とスルメイカ(全体の66%)が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は51kgで平年並みでした。

【ばいかご漁業】

石見地区のばいかご漁業における総漁獲量は34トン、1隻1航海当りの漁獲量は881kgで平年を上回りました。また主漁獲対象であるエッチュウバイの漁獲量は28トン、1隻1航海当りの漁獲量は708kgで平年を上回りました。エッチュウバイの銘柄別では平年より「大」～「大中」銘柄の割合が高くなっています。

【しいら漬け漁業】

6月から始まった石見地区のしいら漬け漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は2.3トンと平年の1.9倍となりました。魚種別の動向(総漁獲量)は、シイラは110トンで平年の1.6倍、ヒラマサは6トンで1.3倍の漁獲量となりました。

【定置網漁業】

出雲地区ではマアジ、ホソトビウオ、サワラ類主体の漁況で、1統当りの漁獲量は13.6トンで平年を下回りました。魚種別の動向(総漁獲量)は、マアジは平年の7割、ホソトビウオは平年並の8割、サワラ類は平年の3割の漁獲量でした。石見地区ではヒラマサ、マアジ、カマス主体の漁況で、1統当りの漁獲量は12.0トンで平年を下回りました。魚種別の動向(総漁獲量)は、ヒラマサは平年の3.4倍、カマスは平年の3.2倍でしたが、マアジは平年の5割の漁獲量でした。隠岐地区ではマアジ、ブリ、ヒラマサ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は30.2トンで平年並みでした。魚種別の動向(総漁獲量)は、マアジは平年の1.4倍、ヒラマサは2.7倍で、ブリは平年並みの漁獲量となりました。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は23kgで平年を上回りました。石見地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は15kgで平年を下回りました。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、ケンサキイカ、キダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は17kgで平年を下回りました。

【平成 28 年 7 月の漁獲統計】

漁業種類	地区	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1 航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類	271トン	59%	78%	9.7トン	53%	91%	○
	隠岐	マアジ	2,398トン	39%	55%	14.4トン	30%	46%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ、ケンサキイカ	2.4トン	11%	7%	55kg	43%	35%	▲
	西郷	スルメイカ、ケンサキイカ	4.5トン	448%	76%	51kg	209%	119%	○
ばいかご	石見	エッチュウバイ	34トン	124%	117%	881kg	127%	125%	◎
しいら漬け	石見	シイラ	117トン	140%	169%	2.3トン	137%	192%	◎
定置網 (大型)	出雲	マアジ、ホソビウオ、サワラ	177トン	37%	53%	13.6トン	37%	54%	▲
	石見	ヒラマサ、マアジ、カマス	48トン	62%	66%	12.0トン	47%	71%	▲
	隠岐	マアジ、ブリ、ヒラマサ	90.5トン	85%	99%	30.2トン	85%	99%	○
釣り・縄	出雲	ケンサキイカ	60トン	69%	104%	23kg	86%	112%	◎
	石見	ケンサキイカ	44トン	50%	67%	15kg	63%	81%	▲
	隠岐	カサゴ・メバル類、ケンサキイカ、キダイ	21トン	98%	73%	17kg	98%	89%	▲

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

大型定置網漁業は 1 統当り漁獲量です。

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成 28 年 8 月 30 日

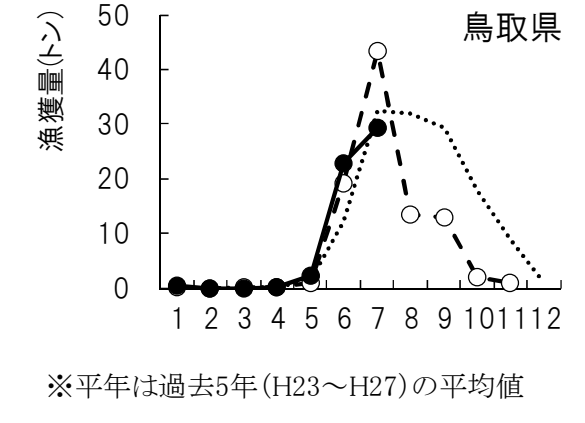
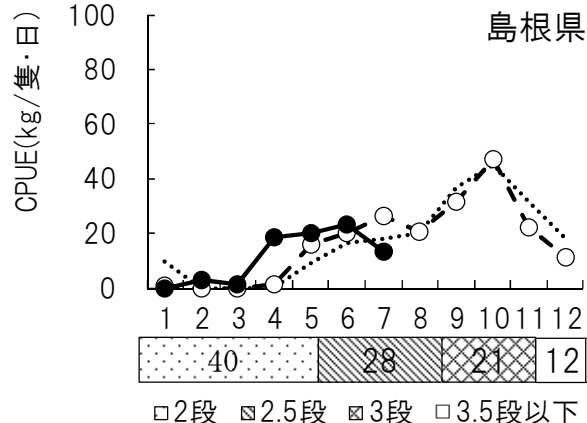
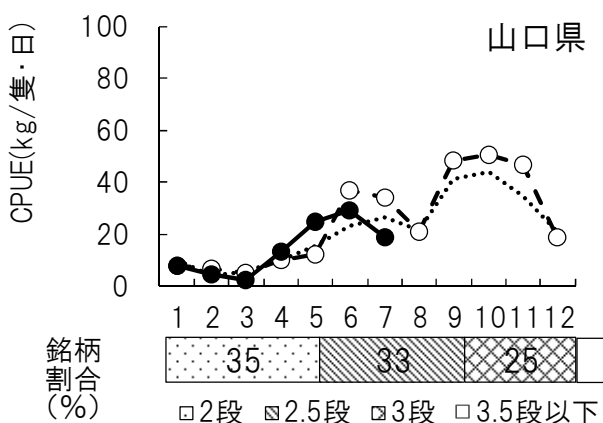
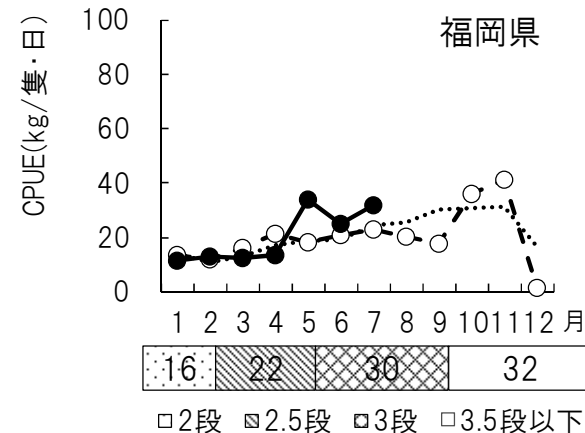
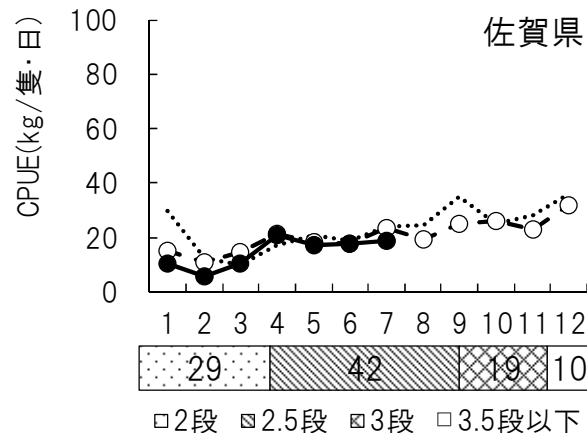
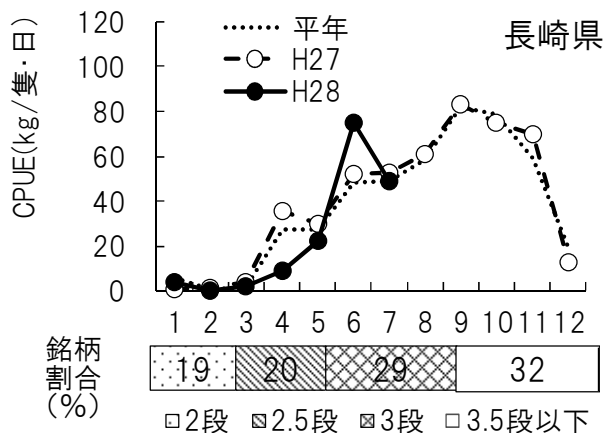
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I : 7月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県以外の県では平年を下回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	標本漁港の水揚げ量は、前年を上回り、平年並みでした(前年比141%、平年比99%)。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年・平年を下回りました(前年比77%、平年比75%)。	福岡県	代表港の漁獲量は、前年比では前年を上回り、平年比では平年並みとなりました。(前年比120%、平年比106%)。
山口県	代表2地区の水揚げ量は、前年・平年を大きく下回りました(前年比31%、平年比39%)。	島根県	主要7港のケンサキイカの水揚げ量は30,140kgでした(前年比37%、平年比41%)。	鳥取県	7月までのケンサキイカの水揚げ量は前年並で、平年を上回りました(前年比92%、平年比128%)。



Ⅱ：8月上旬の底層水温

長崎県	8月の五島西沖観測は行っていません。	佐賀県	底層水温について、壱岐水道は22～23℃で平年並み、対馬東水道は15℃～20℃で平年並みでした。	福岡県	沖合域の底層水温は15～18℃台と平年並み～やや高めとなっています。
山口県	底層水温は冷水域を除き、13～20℃台で平年並み～やや高めでした。	島根県	島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深80～150mが8.3～18.5℃、それ以深が3.2～3.5℃でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は16℃前後で先月より1℃上昇しました。隠岐北方には暖水域が広がっており、鳥取県東部から兵庫県沖にかけての北緯37° 00′ 付近で冷水域が広がっています。

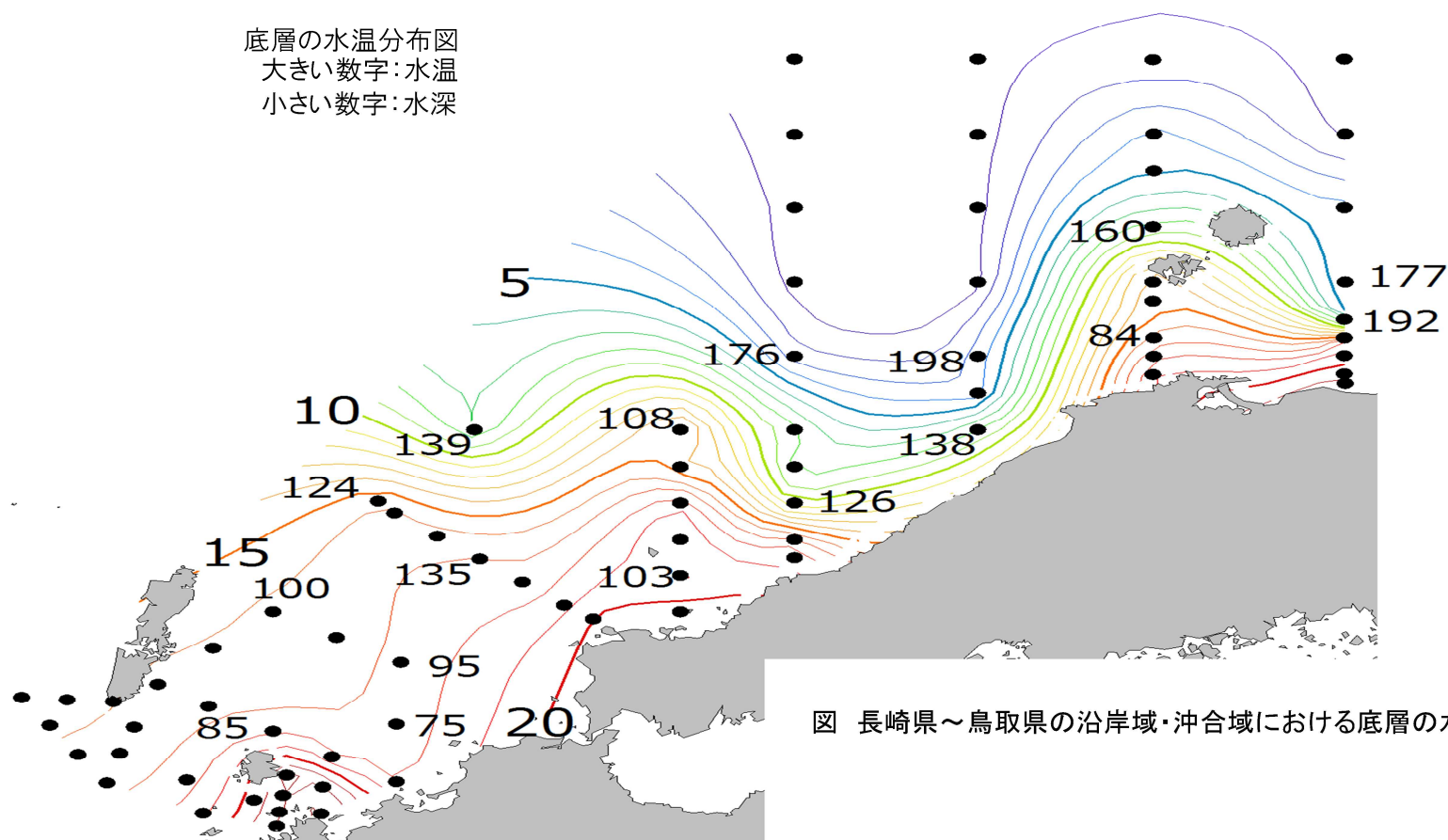


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図